

# 農業委員会だより

## 市長に提言書を提出 安心できる営農環境を

市農業委員会は10月12日、八重樫彰会長ほか役員5人が出席し、農業施策に関する提言書を高橋市長に提出しました。この提言書は、農業委員が日々の活動の中で把握した農業者からの声を取りまとめ、9月の総会で決定したものです。

提言項目は次のとおりです。

- (仮称)営農指導センター」の設置  
農業所得の向上策

①農業者戸別所得補償制度の見直しおよび充実②6次産業化推進への支援

- 担い手の育成と就農支援

- 地域特性を生かした農業振興

①特産作物の支援②グリーン・ツーリズムの推進



提言内容を高橋市長に説明

- 地産地消と食育
- 耕作放棄地の解消策
- 土地改良事業予算の確保と採択基準の緩和
- 農村環境の維持
- 東京電力福島第一原子力発電所事故に伴う放射性物質漏えい被害への対応

## 先進地を視察 6次産業化などを学ぶ

市農業委員会は10月26日から28日までの3日間、限界集落からの脱却に取り組んでいる石川県羽咋市の神子原地区と、地域資源を生かした6次産業化に取り組んでいる岐阜県郡上市の(株)明宝レディースを視察研修しました。

羽咋市の神子原地区は、かつて千人以上が居住していましたが、現在は人口が半分に減少。高齢化率が54%にもなった平成17年に、地区の活性化に向けた取り組みを始めた。農産物のブランド化や加工品の開発販売に成功した経緯、その結果として若者の定着が進んでいる現状について説明を受け、それらが徹底した住民による話し合いと強力なリーダーシップにより実現したこと

を学びました。



羽咋市職員よりブランド化の取り組みを聴く

昭和36年に発足した地域の生活改善グループから発展した会社であり、女性だけで運営されていました。地域で生産された農産物の加工販売をしており、特にトマトケチャップは全国にその名を知られたブランドで、有名百貨店でも逸品として販売されているとのことでした。また、農家レストランやデイサービスなど多彩な経営展開により、地域振興に大きな役割を果たしているとのことでした。今回は2カ所の研修でしたが、両地域とも地域への強い愛着と地道な活動、十分すぎるほどの話し合いの末、ちよつとしたきっかけを逃さない果敢な行動力によって現在の高評価、高実績を獲得したもので、驚嘆させられました。

研修を終え、農業委員の間で、今

回の研修の成果を北上市農業と地域の活性化に生かす方策などについて活発な意見交換が行われ、改めて農業委員としての役割の重要性を考えさせられる有意義な研修となりました。

(農業委員 高橋忠孝)

### 【用語解説】

※限界集落：過疎化と高齢化の進行で集落としての共同体の機能を維持することが限界に近づきつつある集落のこと。

※6次産業：農畜産物の生産(一次)だけでなく、食品加工(二次)、流通・販売など(三次)にも農業者が主体的かつ総合的に関わること。



(上)明宝レディース会長から「当社は女性だけで運営している」と説明を受ける  
(左)手作業によるトマトケチャップの加工の様子



■審議データ

農地の権利移転・利用権設定審議内容

農地法	上段 審議件数 下段 面積(m <sup>2</sup> )		
	9月	10月	11月
3条	3 35,172	4 45,574	3 29,499
4条	1 279	1 953	0 0
5条	7 3,323	8 9,604	3 745
適用外証明	6 2,713	2 754	7 3,652
農用地利用 集積計画	2 9,688	1 2,589	38 313,601

◎農地法3条…農地の所有権、賃借権などの権利を設定または移転する場合  
 ◎農地法4条…自己所有農地を転用する場合  
 ◎農地法5条…農地の所有権、賃借権などの権利を設定または移転して転用する場合  
 ◎農地法適用外証明…農地を20年以上他の目的に使用しており農地の復元が不可能な場合  
 ◎農用地利用集積計画…農地の所有権、賃借権などの権利を設定または移転する場合で受け手側が大規模農家の場合

■これからの主な行事

- 1月26日(木) 総会、農地・農政部会
- 2月22日(水) 農政部会
- 2月23日(木) 農地部会
- 3月22日(木) 総会、農政・農地部会

トマトで農業に挑戦!

及川三雄さん(黒岩)



及川さんは、30年以上勤めた会社を辞め、7年前からトマトを中心とした農業に挑戦しています。きっかけは、子どもが社会人になったこと、残りの人生を考えた時、夫婦の絆を深めることがサラ

リーマンの時の罪滅ぼしになると考えたからでした。はじめに農業技術を身に付けるため、2年間、県立農業大学に通いながら、近くのトマト農家で実習。その後、トマト栽培用のハウスを6棟建設し、現在は12棟にもなっています。妻の育子さんは、産直にも出荷するなど農業を楽しんでおり、繁忙期には及川さんの2人の弟も手伝っています。また、二子地区の農家を中心に構成する「二子トマト組合」に加入し、先進農家や盛岡の指導農業者から指導を受けて、さらに技術を磨いています。より質の高いトマトの収穫量を増やすことで収益を伸ばし、80歳までは元気に頑張りたいと話していました。

(農業委員 小原廣志)

農業団体と市議会との  
研修・交流会

農業委員会、農業協同組合と市議会との研修・交流会は11月4日、ホテルシティプラザ北上で行われました。

情報の交換・共有を目的に毎年開催しており、関係者約80人が参加。市教育委員会の杉本良上席主任社会教育主事による「国見山廃寺文化と平泉黄金文化について」の講演に続き、参加者全員と農業情勢について意見を交換し、農業課題の確認を行いました。

(農業委員 三田隆治)

岩手県農業委員大会

第56回岩手県農業委員大会は11月11日、盛岡市都南文化会館で行われました。当日は、県内各地から農業委員が参加。TPP交渉参加反対と農業施策の充実を求める要請決議を採択し、県と県議会へ要請することを決めました。また、東日本大震災からの復興・再生に全力を挙げて取り組むことなどの大会宣言も併せて行いました。

なお、式典において当委員会が活動記録部門、農業者年金部門、全国農業新聞部門で表彰を受けたほか、次の農業委員が表彰されました。

◇活動表彰  
 【活動記録部門・全国農業新聞部門】  
 八重樫彰氏  
 【活動記録部門】 及川定美氏

(農業委員 三田隆治)

農業委員会だより編集  
委員会視察研修



大崎市の紙面づくりを視察研修

市農業委員会編集委員は11月28日、宮城県大崎市農業委員会を訪問し、農業委員会だより発行に関する取材や編集について研修しました。

大崎市農業委員会は、農業委員会だよりの全国コンクールで平成22年に表彰を受けています。当日は、過去に発行した紙面を見ながら作成に係る説明を受けた後、質疑応答や意見交換を行いました。

今回の研修で学んだことを活用し、より分かりやすく伝わりやすい紙面づくりに努めていきますので、よろしくお願ひします。